

# 平成22年度学校自己評価

評価得点 4:目標を十分達成できている 3:目標を概ね達成できている 2:目標の達成まであと一步である 1:目標を達成できなかった

項目	重点目標	評価	取組状況・成果・課題	改善策	外部評価でいただいた意見等
かしこい頭を	1 確かな学力を身につけた子どもを育てる。 めあてを示した問題解決学習により、児童の思考力や判断力等をのばす工夫を行う。 まなびのすすめ、などを活用し、家庭と連携を図りながら家庭学習の定着を進める。	3	・「学習のめあて」と「学習のまとめ」のある授業を推進し、多くの学級で実践が進んだ。 ・本校の実態に基づく「学びのすすめ」を発行し、家庭の協力を得ながら家庭学習の充実を図り、成果が上がってきている。しかし、その取組に学級間で差が見られた。	・学力調査の結果をもとに重点的な指導を行っていき。 ・今後も各学年で計画的に家庭学習の課題を課し、学級間の取組の差を縮めていく。	・アンケートの結果から「授業がわかりやすい」ものになっており学校の努力が伺える。 ・知恵を発揮できる学力を身につけさせて欲しい。 ・読書活動のさらなる充実を望む。
	2 指導力の向上を図る。 校内研究をもとに国語科指導方法の工夫改善に努め、授業力の向上を図る。 授業技術の向上と生活指導に関する指導力の向上を図る。	4	・級友全員の考えが響き合う国語科の指導法を全教師が追究し、大きな成果となった。 ・児童アンケートで「先生の教え方はわかりやすい」と回答した児童が全体の94%を占めた。	・国語科の各単元の指導内容を整理し、身につけさせたい学力を明確にする。 ・国語科研究で養った言葉の力を、今後は他教科へ波及させる。	・先生方の研修を充実させ、指導力の向上に努めて欲しい。 ・これからも基礎学力をしっかりと身につけさせて欲しい。 ・個に応じた指導の充実を望む。
やさしい心を	1 基本的な生活習慣の定着を図る。 職員の共通理解のもと生徒指導を推進し、年間目標・月目標の実践を進める。 南小の「くらしの約束」をもとに、きまりを守る生活を送らせる。	3	・毎月、同学年などで子どもたちの生活について活発な話し合いが行われた。問題が起こった際には職員の共通理解と全児童へ指導の流れがスムーズに行われ、大きな事故など未然に防ぐことができた。	・共通理解事項は、次年度以降も引き継ぐ体制を築く。 ・きまりについては、場面をとらえ繰り返し指導する。また、学級会や児童会でも議題として取り上げ、子どもの主体的な取組に高めていく。	・社会生活を営む上でのルール作りをお願いする。地域行事の中で、高学年の児童が下級生の手本を示す姿がさらに増えるよう、助言して欲しい。
	2 心の教育の充実を図る。 徳目の重点化を図り、カリキュラムに沿った道徳授業を実践する。 教育活動全体を通して、他の痛みに共感し、思いやりの心をもって接する態度の育成を図る。	3	・年間を通し、週1時間の道徳授業の実践がなされ、教材の整理・保管も進んだ。 ・善悪の判断や自律心は身につけてきているが、相手のことを思いやる言動が十分でない子どもも見られた。	・道徳の教材研究・資料の整理を同学年で進めていく。心のノート等を活用し家庭とも連携を図っていく。 ・「ふわふわ言葉」「ちくちく言葉」など、言葉の指導をさらに積み重ねていく。	・教師の一生懸命な姿を見せることが大切。 ・掃除や給食時間に子どもと教師が共に働く取組を今後も継続して欲しい。
	3 豊かな人間関係づくりを進める。 時と場に応じた正しい言葉遣いとあいさつの習慣化を図る。 児童・教師のつながりを深め、信頼関係のある学級づくりを行う。	3	・あいさつについて、全校をあげて指導にあたった。教師から子どもへの声かけを意識的に行っている。 ・児童アンケートで「学校は楽しい」と回答した児童が93%を占めた。	・言葉遣いの指導について共通理解・共通実践を深めていく。 ・児童が相談しやすい雰囲気や教師が話し出し担任以外の教員でも相談を受け入れる体制づくりをさらに進める。	・「いじめ0」を目指して取り組むべきである。 ・あいさつが生活の基本である。今後も教師からの積極的なあいさつや声かけを継続して欲しい。
たくましい身体を	1 基礎体力の向上を図る。 おはようランニング等、自主的な体力づくりに取り組む。 体育の授業や体育的行事において、体力の向上に努め、集団行動を身につけさせる。	3	・おはようランニングの参加率は昨年度より大きく向上している。しかし、屋外で活動することを好まない子どももいる。 ・集団行動は学年に応じ身についてきているが、体力の向上について重点的な指導が十分ではなかった。	・体力テストで課題となった項目を中心に体育部で検討し授業に取り入れていく。 ・おはようランニングや休み時間の外遊びを促し、体を動かすことが好きな児童を増やす。 ・持久走大会や記録会を学年に応じて計画していく。	・外で遊ぶことを大切にしてほしい。 ・おはようランニング記録表などを工夫して欲しい。 ・小体連などにおいて今以上に成績向上を望む。
	2 健康・安全教育の推進を図る。 交通安全・不審者対応・防災など安全に関する指導を継続的に行う。 保健指導や食育をもとに、自主的な健康づくりを促す。	3	・年間4回避難訓練を実施し、避難の仕方や不審者への対応を指導した。真剣みに欠ける子どもも見られた。 ・栄養教諭が配置され3年目となるが、子どもへの直接指導が定着し、食に関する意識が高まっている。	・今後も避難訓練を実施する中で、命を守る訓練であることを意識づけていく。また、避難経路や行動様式などの確認をしっかりと行っていく。 ・不審者情報などがある場合は、今後も迅速に対応し、保護者への連絡等も確実にやっていく。	・各家庭の大切な子どもを預かっているの、いざというときに機能するよう訓練を充実させて欲しい。 ・不審者情報など、確実に各家庭に連絡して欲しい。
情報発信と連携	1 広報活動の充実を図る。 学校だよりや学年通信、ホームページ等により、広報活動を充実させる。 学級PTA・学級通信・連絡帳等を利用し、学校の様子を伝え、保護者との連携を進める。	4	・通信の発行等、広報活動は年々活発になってきた。 ・行事の紹介や連絡が中心ではあるが、子どもの成長の様子を具体的に伝えるよう努力している。	・今後も、創意工夫して学校だより、学年・学級通信、ホームページの発行・更新を継続する。 ・通信等で子どもの具体的な様子を伝え、保護者への連絡を必要に応じて行っていく。	・学校便り等で子どもの様子がよくわかる。さらに工夫ある通信にして、学校での子どもの様子を知らせて欲しい。
	2 保護者・地域との連携を進める。 授業において地域より外部講師を招き、開かれた学校づくりに努める。 PTA・おやじの会・図書ボランティア・育成協等と連携し、教育活動や環境整備の充実を図る。	4	・各学年において地域との交流が行われ、昨年度の反省を生かした準備や内容となった。 ・見守りボランティア・おやじの会・図書ボランティアには、年間を通じた支援・協力を受け、教職員との連携も深まっている。	・必要に応じて、家庭への連絡、家庭訪問、家族の方との個人面談を充実させていく。 ・相互の連絡・連携を進め、計画性をもち、見通しをもった活動にしていく。 ・ボランティアと教職員とのつながりをさらに深めていく。	・地域でも子どもを育てるという意識で生活を行いたい。今後も学校との連携を密にしていきたい。
学校運営全般	1 教育環境の整備を図る。 季節感をもたせた掲示を創意工夫し、掲示教育の充実を図った。 安全点検を充実させ、施設設備の安全確保を図った。	3	・全校掲示板に、毎回の担当者が工夫ある掲示物を作成し、定期的な更新がなされた。 ・学年掲示板の掲示物の貼り替えが遅れることがあった。 ・毎月1回安全点検を実施し、不備があれば迅速に対応した。	・全校掲示板の内容を全校の子どもに紹介し、掲示物への意識を高めていきたい。 ・学年掲示板には、今後も子どもの作品を中心に掲示を行っていく。 ・今後も安全点検の充実にも努め、安全な教育環境を保持していく。	・掲示物は子どもの活動が伝わりやすいものを掲示してほしい。 ・安全な学校を目指して、安全点検を今後もしっかりと行って欲しい。
	2 特別支援教育の充実を図る。 児童や教師の障害者理解を進める。 配慮の必要な児童について、校内組織を活用したり相談体制を強化して連携をもった対応を行う。	4	・職員による事例研修会・情報交換会を通じて共通理解が進んだ。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に相談体制が充実し、早期に児童・保護者・教職員の相談が行われるようになった。	・子どもの障害者理解を実態に応じて進めていく。 ・発達障害に関する職員研修を継続していく。	・今後も、いろいろな子どもが友達と共に成長する教育の場を目指して、学校運営にあたって欲しい。 ・一人ひとりの子どものニーズに対応する指導体制を充実して欲しい。